

# TOKYOINK NEWS

No.6  
東京インキニュース  
2011.9

当社の製品群は「安心・安全」「防災・復旧」「環境・エコ」をコンセプトに開発を推進しています。

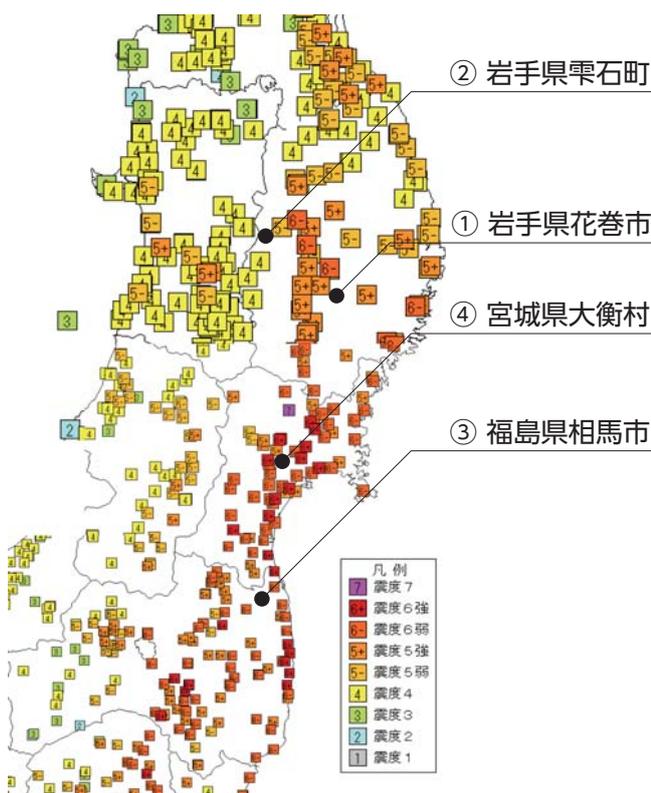
今回は東北地方太平洋沖地震におけるテラセル擁壁工法の被災調査を報告します。

## 東北地方太平洋沖地震における テラセル擁壁工法の被災調査

### 東北地方太平洋沖地震の概要（気象庁のホームページより）

3月11日14時46分頃に三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。この地震により宮城県栗原市で震度7、宮城県、福島県、茨城県、栃木県で震度6強など広い範囲で強い揺れを観測されました。また、太平洋沿岸を中心に高い津波を観測し、特に東北地方から関東地方の太平洋沿岸では大きな被害があり、気象庁はこの地震を「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」と命名しました。

(東北地方太平洋沖地震及びこれに伴う原子力発電所事故による災害については、「東日本大震災」と呼称することとなりました。)



震度分布図（気象庁のホームページより）

#### ① 岩手県花巻市

2009年8月に施工され、最大壁高は4.95mになります。ボックスのウィング部のブロック積工の代わりに使用された現場です。現地の震度は6弱あり、テラセル擁壁の背面は盛土になりますが、のり面勾配や周辺部に変形は見られず、製品の損傷もありませんでした。

### テラセル擁壁工法の再調査

震災後から約1週間後にテラセル擁壁の現地調査を実施しました。

現地調査を実施したのは岩手県花巻市と岩手県雫石町、福島県相馬市、宮城県大衡村で施工された4件の現場です。



① 岩手県花巻市（上：震災前／下：震災後）

## ② 岩手県雫石町

2009年11月に施工され、最大壁高は1.65mになります。道路拡幅工事による既設歩道の移設に使用されました。現地の震度は5弱あり、天端部の中詰材にコンクリートを使用していますが、ひび割れやクラックの発生はありませんでした。



## ③ 福島県相馬市

2010年10月に施工され、壁面数は9ヶ所あります。その中の最大壁高は7.95mあり、山間部の切土のり面の保護に使用された現場です。現地の震度は6弱あり、曲線施工も多くありますが、こちらの現場でものり面勾配や周辺部に变形は見られず、製品に損傷もありませんでした。



## ④ 宮城県大衡村

2009年4月に施工され、最大壁高は5.10mになります。大規模工業団地に向かう表玄関の道路として景観性と経済性から切土のり面の保護に使用された現場です。現地の震度は6強あり、被災調査を実施した現場の中では最も震度の大きな現場です。こちらの現場でものり面勾配や周辺部に变形は見られず、製品に損傷もありませんでした。

② 岩手県雫石町 (上：震災前／下：震災後)



③ 福島県相馬市 (上：震災前／下：震災後)



④ 宮城県大衡村 (上：震災前／下：震災後)